

特定非営利活動法人 カンボジア教育・農業支援の会 設立趣旨書

カンボジアは、かつての内戦で多くの教育関係者を失った影響により、近隣の東南アジア諸国と比較して教育分野の発展が遅れているのが現状です。また、同国は若年層の割合が非常に高く、次代の社会を担う人材の育成が急務となっています。一方で、人口減少が続く日本においては、産業界の人手不足を補うために海外からの労働力への依存が高まっており、在日カンボジア人労働者も 2 0 2 5 年時点で約 2 万人に達し、今後さらに増加することが予想されています。

日本とカンボジアの将来にとって、親日的で日本語能力を備えたカンボジアの若者が増加することは極めて重要です。日本での労働や留学には、日本語能力および日本社会・文化に関する知識が鍵となりますが、現在発生している外国人とのトラブルの多くは、こうした知識や能力の不足が大きな要因であると考えられます。

このよう課題を解決するための拠点の 1 つとして挙げられるのが、1 9 9 9 年の創設以来、カンボジアのプレイヴェーン州にある、中高一貫校「カンボジア日本友好学園」です。同校は日本との友好の拠点となり、日本の支援団体による日本語教育が行われてきました。現在では、2 0 2 4 年に設立された現地の NGO「教育友好農業開発機構 e－FAD（以下「e－FAD」という。）」が、日本語教師の派遣やオンライン授業、留学生の送り出し、教員研修、さらには農業支援などの活動を担っています。中学生段階から継続的な日本語教育を行うことで、将来的に質の高い特定技能労働者や留学生として活躍できる道が開かれ、日本にとっても優秀な人材を受け入れることが可能となります。

しかしながら、e－FAD はカンボジア国内の NGO であるため、日本国内における社会的信用の獲得や支援者の拡大が困難であるという障壁に直面してきました。そこで、こうした障壁を取り払い、日本国内の支援者の力を結集して現地の活動をバックアップするとともに、カンボジア国内の教師、学生及び日本国就労希望者に対する日本語・理数科・I T・交通安全の教育支援、在日カンボジア人の異文化理解の促進および生活上の課題解決支援やカンボジア国内の農業支援の強化を目的として、日本国内で特定非営利活動法人を設立することを決意いたしました。

具体的には、現地 NGO「e－FAD」がカンボジア国内での教育活動や人材の送り出し等の実務を担う一方で、本法人は日本国内での支援者拡大や資金調達および在日カンボジア人やカンボジア国内の日本国就労希望者への支援・活動のバックアップを担うという役割分担のもとで連携します。

特定非営利活動法人となった暁には、定期的な総会の開催や法令に基づく書類の作成・提出、情報公開を適切に行うことで、組織の透明性と社会的信用を確保いたします。本法人の活動を通じて、カンボジア国内の教師、学生、日本国就労希望者及び在日カンボジア人の能力向上並びに課題解決やカンボジア農村地域の教育・経済発展に寄与し、両国の友好関係を一層深めることを目指します。

申請に至るまでの経緯

2 0 2 4 年 6 月 5 日 カンボジア国内 NGO「教育友好農業開発機構 e－FAD」設立関与
2 0 2 5 年 1 2 月 1 日 特定非営利活動法人の設立を有志で確認
2 0 2 6 年 1 月 1 9 日 特定非営利活動法人カンボジア教育・農業支援の会 設立総会開催

令和 8 年 1 月 1 9 日

設立代表者

氏名 露木 繁